

平成 29 年度第 2 回丸瀬布地域まちづくり会議録（要旨）

- 日 時 平成 29 年 9 月 7 日（水）18 時 30 分～20 時 50 分
- 場 所 丸瀬布コミュニティセンター多目的ホール
- 出 席 柳田会長、上野副会長、関委員、塘委員、能正委員、須藤委員、鈴木委員
- 欠 席 管野委員、佐竹委員、谷口委員
- 町出席者 総務部企画課 佐藤課長、中原主幹、丸瀬布総合支所 只野支所長
- 会議内容（主な発言を収録。内容は要約している。）

1 開会

18：30 開始 佐藤企画課長

2 会長あいさつ

（柳田会長）先月第 1 回の会議においては、様々なお立場から貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。ある程度町長への提言ができたような感もあるが、10 人の委員のうち 6 人が出席ということで、少しでも多くの意見を肉付けすべく再度集まってもらった。前回出席の方からもここ 1 か月の間に出てきた意見があれば、出していただきたい。御協力をよろしく願いたい。

3 第 1 回会議の振り返り

資料 1-1（前回議事録）、1-2（ポスター写し）、1-3（意見要約）、1-4（資源ごみ収集回数について）、1-5（遠軽駅に設置されたの机と椅子の写真）に基づき、中原主幹説明。

4 まちづくりへの提言について

（柳田会長）今の報告を基に話を進めていくが、新しい意見をうかがっていききたい。前回欠席の方から思いついたことがあれば発言をお願いしたい。

（関委員）自分は北見木材に勤務しているが、遠軽地区から通っている人が多い。半分ぐらいがそう。独身者もいて、旧丸瀬布町時代は 1 人で公営住宅に入れたが、遠軽町になってから、家の平米数の条件があって借りられなくなった。元町の住宅とかもそう。丸瀬布に住みたいが住宅がないという状況がある。一人で住める住宅があれば、もう少しこちらの人口も増えてくるのではと思う。

（塘委員）住宅に関しては、うちもヒルトップハイツだが、例えば旭川、札幌から就職して来て住めるところがないという話がある。空いている住宅があるけれども、規則で単身者は住めない。元町とか新町とかは、築年数が経っているので若い人は「古すぎてちよっと・・・」となる。結局、遠軽から通うという風になってしまうというのが現状で、「住宅があれば丸瀬布に住んでもいいんですけど」と。逆に昔は、住めるところがないので、ごめんなさいという人もいた。そういうところをどうにかしていただければ違うのかなと思う。

（上野副会長）規則とか、わかる範囲で言えないか。

（只野支所長）国の補助金をもらって建てているので、町の条例とかでも、一人だと老年

者とか障がい者とかじゃないと難しいというのがある。2年ぐらい前までは入れない状態があったが、今はかなり空いている。公営住宅法に関係ない定住促進住宅という、営林署の住宅を買ったりしたものがある。その部分については、そういう縛りがないので、今それがかなり空いてきている。

(上野副会長) そういうのは、若い人が新しく就職して住むのに見合う家なのか。

(只野支所長) 結構一般の人たちも入っている。そんなに新しくはないけれども。新しい住宅も出て行ったりしている例もある。住宅のこともあるし、住宅以外で出ていくというのもある。

(上野副会長) 住宅のくくりを取っ払うことはできないのか。

(只野支所長) なかなか法律上難しい。公営住宅も収入の縛りがあるので、高所得の人については、民間の住宅に入るなり、家を建てるなりしなくてはならない。枠から外れる人は、定住促進住宅とかに入る。そういう分には今はかなり空いていて入りやすくなっている。

(上野副会長) 使えないものがあっても仕方ない。我慢すればあるじゃだめ。

(只野支所長) 20年、15年経っているが十分使える。

(上野副会長) そういうくくりが邪魔になって人が定住できないというのがある。行政でできることが何かないのか。

(関委員) それは昔からそういう法律だったのか。なぜ、丸瀬布時代は1人で住めたのか。

(只野支所長) そのへんは何でも一人で入れたわけじゃないと思う。普通はない話。

(上野副会長) 田舎はそういうくくりを取っ払わないとだめ。生きていけないんだから。どうしようという前に、そういうものを全部取っ払ってからどうしようと言わないと。

(中原主幹) 今空いているということなので。

(上野副会長) 空いているといっても、数として空いているのか、使えるものが空いているのか。

(只野支所長) 使える。

(中原主幹) きれいにすれば住みたいという人はいるのかもしれない。そういったことを御意見として上げてもらうといいと思う。

(上野副会長) 丸瀬布に住みたい人は汚くても住む。仕事があつて住まなくちゃならないのに、住宅がないので出て行っている。そういうのは改善しないとだめ。

(只野支所長) そういうのは実際あつた。学校の先生とか水洗トイレ以外使ったことなく、住めないという。

(柳田会長) この問題は提言の一つに。この他に何かないか。

(上野副会長) 人口が減っているのは間違いがない。固定数を増やすのは難しい。農業は農業者が頑張れば済む話ではなく、政策的なもので抑えられてきた。新規就農してもらうほど立派な畑でもない。流動人口もホスピスの施設を持ってきてというのも難し

い。かと言って、今いる人が楽しければいいのか。町としては何が狙いか。

(柳田会長) 町としてでなく、我々としてこういう地域にしたいということで、それに向けて提言するのが望ましい。例えばホスピスという話も出たが、病院を中心としたまちづくりとか、自然環境を生かしたまちづくりのような。

(中原主幹) 前回の資料で人口の動きを紹介したが、ほぼ合併時に予想したとおりに進んでいて、簡単にあらがえるものではない。これを折り込んでこの先の町のことを考えなければならない。次世代のことも考え、減少を少しでも抑えることも考えなければならない。住みよい町というのにも必要。今より少しでもいい町にしていくという視点で考えてもらいたい。

(塘委員) 減少を食い止めるのは無理。産業が必要。福祉施設もこの先高齢者も減っていく。子どもが保育所に通っているが、少し前から親のどちらかが休みの時は預けられないとなった。平日が休みの方もいる。たまの休みに子どもを預けられないのでは、親は休まる時がない。遠軽だと幼稚園があるが、丸瀬布は保育所しかない。子どもは保育所で友達を作るが、親が休みの時は保育所に行けない。年末年始の休みも長い。田舎なので都会とは違うのはわかるが、考えてほしい。

(只野支所長) 都会では保育所が不足している状況があり、親が休みの時は預けられないことになっている。

(上野副会長) それをそっくり町内全部に当てはめて通知を出したのか。

(中原主幹) 監査で指摘を受けて、そうせざるを得なくなったと聞いた。

(上野副会長) 住みにくくするのは、そういうくくりばかり。

(只野支所長) 全ての人にいいようにというのは、なかなか。制度が追いついていないというのが実状。

(中原主幹) 遠軽と丸瀬布は状況が違うというのはあるので、保育所とかだと法律的な部分でどうにもならないところがあるが、現状を伝えるのは意味がある。

(能正委員) 保育所は親が休みの時は預けてはいけないのか。

(中原主幹) そうしたことだと思う。

(上野副会長) こうした問題は、一般の町民に振るのではなく、法律的な問題は行政で考えて住みやすくする方法がないのか。

(佐藤課長) 都会の基準で地方を見ないで制度が作られている部分がある。そういう声を中央に届けるのも町の役割。

(上野副会長) 国に上げないと解決できないのか。

(中原主幹) 国の制度を利用しないで独自に、お金もいりませんと言って保育所をやることはできる。国からのお金が入ることになれば、国の言うことを聞かなくてはならないという現状はある。

(柳田会長) 他に前回以降に思っていたことなどないか。

(鈴木委員) 省庁の関係、法律の関係うんぬんと言って、地域の声と言っているが届かな

いと思う。多分、町長のところにも届かない。小さな声は潰される。自分たちがそのところ風穴を開けていくような、行政に頼らずにしていかないと地域づくり、まちづくりは進んでいかない。アリバイ作りのような感じになっているのではないか。

(佐藤課長) こういう法律がおかしいというのであれば、実際に国に要請にも行っている。

(鈴木委員) そんなことで変わらないのではないか。

(佐藤課長) それはやってみないと分からない。この地域だけでなく、全国的な動きの中で大きくなれば変わっていく要素はあると思う。

(上野副会長) 法律は角度によっては、有罪の者も無罪になったりする。何かやりようがあるのではないかということ。こここのところを見たら行ける、というのがあるのではないか。そこのところと一緒に考えられる町の間、町長、行政かというのが大事。そこから始めなければ、まちづくりなんてできない。何か方法ないかというスタンスに立たなかったら、アリバイ作り。この会議もこうやりましょうというのが決まって、遠軽が独自にやっているものじゃないのでは。

(中原主幹) 遠軽町独自でやっている。

(上野副会長) せっかくやるんだったら、実のある話をしたい。全部、法律に則ったらだめですじゃ。

(柳田会長) そう思うのではなくて、我々も集まって、自分なりにやりたいことがあれば見つけてくれれば。

(鈴木委員) 資源ごみの話も結局は変わらないという形だが、不便を受けているのは住民。それを何とかして皆が不便のないように変えて行かなかつたら、机上の計算でこういう発想だけだと何も前に進まない。

(柳田会長) 業者が地域々違うからということだが、もっと融通性がほしい。

(鈴木委員) 車を半分にしてやるとか、何か方法を出していかなかつたら良くならない。

(中原主幹) 今回の資料は、担当課から話を聞いて、今どうしてこうなっているのか説明したもの。できないということではない。

(塘委員) 燃えるごみも違うのか。

(中原委員) 燃えるごみも違う。

(上野副会長) 田舎に住む人間にとっては、道路も整備されて丸瀬布に降りる車が少なくなった。車がある人は車で遠軽や旭川、札幌に行ける。丸瀬布から店がなくなるのは当たり前。不便を甘受しなければならなかった田舎が不便を感じることはないとなったら、住む必要性もなくなってくるのではないか。だからといって、残った人がどうやって楽しく暮らすか。若しくは、がんがん産業を起すか、人を呼ぶかどれを考えても難しい。

(佐藤課長) 丸瀬布はいこいの森があるので、交流人口の拡大の面で要素がある。

(只野支所長) マウレに泊まってもらえないと金落ちないが。

(柳田会長) 他に何かないか。

(須藤委員) ごみの話で、昔は集める場所があった。そういうところがあるといい。

(柳田会長) 同じ集めてもらえないとなれば、そういうことも考えてほしい。

(能正委員) ごみの量が少ないから収集回数が少ないということだが、この先人口が減ったら更に収集回数が減るのか。それは困る。

(中原主幹) 税金は同じなのだから、収集回数を同じでいいんじゃないかという言い方はできると思う。

(上野副会長) 日々の暮らしの中で出てくるのが本当のまちづくり。こういう問題に真剣に向かい合ってもらえる体制ができるか。丸瀬布の病院も、もうあつてないようなもの。遠軽厚生病院も危ないんじゃないかというようになっている。立派な病院があつて余生をここでと安心していましたが、どうしたらいいかと思う。病院の器があるんだから、何かに利用できないか。畑もいっぱい余っているので、お年寄りに畑を作ってもらって1次産業から始まって、そこに器を使ってそういう人が入れるようにして。会長が言っていたように医療のまちづくりをしてきたというのを、もう少し掘り下げていけたらと。

(柳田会長) 自治会でやっている国道の花壇も高齢化で厳しくなっている。他の団体にもやってもらいたいが、それが元でギクシャクするのもかえって困る。

(柳田会長) 若い人の住宅問題、保育所の問題など色々提起されたが、こういったことも含めてある程度まとめて町に提言として持っていきたい。方法として、どんな形で誰が発表するか。

(中原主幹) まずはどういう提言を出すかをいくつかポイントを絞ってもらいたいと思う。

(上野副会長) 町長が各地域を回ったらいいのではないか。

(佐藤課長) 他の地域ではどういうことを考えたのかということも含めて交流していきたいというのもある。お互いのことが知れる。

(上野副会長) 4地域が集まって、その時は町長も来るのか。

(中原主幹) そう。そこで各地域15分ぐらい提言について発表していただきたい。各地域からの発表に対し、他の地域から質問や意見が出されるといいと思う。

(塘委員) 丸瀬布から湧別高校に通うバスがないというのは、本当か。

(中原主幹) 確認する。バスの方は、名寄線沿線自治体で協議会を作って運営しているので改善できる可能性がある。

(塘委員) 現状、そういう子はいるのか。

(能正委員) いない。遠軽高校が定員割れしている。

(上野副会長) ごみ収集の話は、まちづくりの話まで発展するような話ではない。

(柳田会長) 保育所、住宅については、若い人の定住に関する問題ではないか。

(中原主幹) 若い人に定住してもらいたいから、もっと保育サービスや住宅を充実してというのは十分まちづくりの話だと思う。

(鈴木委員) 地域間の格差を付けられるのか。例えば、丸瀬布は保育所が無料とか。でき

るのであれば、人を呼び込める。

(上野副会長) それはできないだろう。

(中原主幹) 遠軽には幼稚園という選択肢があるが、丸瀬布にはないので同じルールを適用しないで、というのも提言としてはありだと思う。

(柳田会長) 病院というのも、遠軽の病院なのか、丸瀬布の病院なのか。

(中原主幹) 器の活用の話もあるので、医療ではなく病院にした。

(上野副会長) 医療とか教育は、行政が腹をくくってお金を出さないといけない問題。

(中原主幹) 医師不足に関しては、国の制度の問題があり、町としてはやれることはやっている状況。

(柳田会長) 丸瀬布としては、ほかに観光のことは外せない。

(中原主幹) そろそろまとめてもらいたい。これと、これと言ってもらった方が。

(柳田会長) まちづくりとしてごみ収集を上げるのはちょっとどうか。

(上野副会長) それは違う場面にとっておく。

(柳田会長) 病院はどういう形で持っていくか。

(中原主幹) 空いているスペースをこう活用したらいいとか。

(鈴木委員) 厚生連の持ち物を活用するのは難しいのでは。

(中原主幹) そんなに簡単ではないが、あまり実現性を考えると何も言えなくなってしまう。ある程度無視して考えていい。そういうことは役場が考えればいい。観光で言えばキャンピングカーのことが出ている。

(塘委員) 例えば、医療費無償化になるとすごく助かる。

(佐藤課長) 9月の議会の一般質問でも出ている。

(中原主幹) 住宅と保育サービスと医療費無償化を合わせて若年層の定着を図るというようにまとめてはどうか。

(上野副会長) 大前提として若い人に仕事があるかということがある。

(中原主幹) それは別に考えてもいい。観光で一つ考えてもいいのではないか。

(鈴木委員) 丸瀬布に住んで、遠軽に通ってもいい。家賃を安くするなどして、住んでもらえればなんとかなる。

(柳田会長) もう一つ観光で。

(塘委員) キャンピングカーを集めるにはどういうことをすればいいのか。

(中原主幹) わからないが、駐車マスを大きくするとか、ニーズを調べるといい。

(鈴木委員) コインランドリーとかシャワーとか。いこいの森も多い。

(柳田会長) キャンピングカーの人たちは結構滞在時間が長い。

(中原主幹) いこいの森よりお店で買い物をするとか、高規格延伸で利用者が減っているということを考えると道の駅に集めたいということだと思う。これで一つでいいか。

(柳田会長) それと、大規模林道の開通を観光の一環として。

(中原主幹) 北海道に言うことしかできないが。

(柳田会長) しつこく言わないと。それと大平の活用。立て看板とか、草地内に入らないようにして。雑草で景色も見えなくなっている。

(塘委員) いこいの森の復旧はいつか。

(柳田会長) 来年のゴールデンウィークまでかかる。

(中原主幹) 大規模林道の開通によって観光にどんな効果が生まれるか。

(上野副会長) 大雪国道に抜けられるようになり、温根湯とつながる。

(中原主幹) 2つめは観光を振興するというようなことで、キャンピングカーを道の駅に集める。大規模林道を開通させる。大平高原を活用する。といった提言とするのでいいか。

(上野副会長) 提言したら責任がある。

(中原主幹) そこまで考えなくていい。これを聞いて町長が面白いと思ったらやるかもしれないし、やらないかもしれない。どうしてもそういう風になってしまう。

(柳田会長) この2つで十分。

(上野副会長) 方向性として住みやすさと観光と言うことでいい。

(中原主幹) 後は発表を誰がやるかということだが。

(上野副会長) 会長と作りながら話をしてもらえれば。

(中原主幹) 「若い人が定住し、安心して子育てができる方策として、保育サービスを充実、公営住宅の整備、子どもの医療費無償化」「観光を振興する方策として道の駅にキャンピングカーを集める、大規模林道を開通させる、大平の整備・活用」の内容で会長と調整して発表に臨むということでもいいか。

(全体) はい。

5 平成30年度以降のまちづくり会議のあり方について

今年度の提言のその後の確認。地域の産業や人口を知り、方策を考えるといった意見が出た。

6 その他

なし

7 閉会

20:50 終了